

めまいを極める イルネススクリプトをおさえた 診断カトレーニング

「めまいがする」という訴えは、内科、耳鼻咽喉科、脳神経内科、脳神経外科、救急科、総合診療科など、あらゆる診療科で日常的に遭遇する訴えである。めまいはその原因が多岐にわたり、耳性めまい、中枢性めまい、循環器系疾患、薬剤性、心因性など、幅広い鑑別を要する。それにもかかわらず、限られた診察時間のなか、詳細な問診や身体診察を行う余裕がないまま、診断や治療が開始されることも少なくない。その結果、診断の遅れや誤診を招くことがある。

本特集では、「めまい」という診療現場で頻出かつ鑑別困難な症状を取り上げ、診断精度の向上を目指す。その中心となるのが、「イルネススクリプト(illness script)」の活用である。イルネススクリプトとは、医師が臨床経験を通じて形成する病態の記憶構造であり、診断推論を円滑に進めるための認知的フレームワークである。経験豊富な医師ほど、スクリプトの数が多く、精緻であることが知られており、この構造化された知識を意識的に学ぶことは、臨床推論スキルの修得に有効である。

めまいに対するイルネススクリプトの具体的な構造や活用方法を解説し、めまい診療に必要なスクリプトの形成とその活用を行うことができるようになることが本特集の狙いである。さらに、代表的な疾患の症例を取り上げ、どのような情報をもとに鑑別を進めるべきか、どのようにスクリプトに照らしあわせて診断推論を行うべきかを具体的に紹介する。加えて、神経学的所見を含めた身体診察、画像検査の活用法なども取り上げ、総合的な診断力の向上を図る。

本特集が、臨床医の「めまい」に対する理解と対応力を深め、実践的かつ体系的な診断戦略を身につける一助となれば幸いである。

千葉大学大学院医学研究院地域医療教育学
鋪野紀好